

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は昭和44年に旭川で生まれ、幼少期は金星橋の付近で育ちました。公私共に金星橋を通る機会は多いのですが、父と石狩川へ良く散歩に行ったこと、毎日自転車で金星橋を超え高校に通ったことなど、懐かしい思い出が詰まった場所です。国語が割と得意で吹奏楽に夢中だった高校時代はどちらかという文系寄りでしたが、子供目線でとても大きく見えた橋梁・河川・道路を身近に感じた環境が、土木の道に進むきっかけになったかもしれません。

北見の大学を卒業後、現在の職場で20年以上道路の設計・計画に従事しています。平成17年度に技術士の資格を取得後、いつのまにか若手とはいえ年齢にもなり、今後もより一層の技術力向上や研鑽に努めなくては、と思うところです。

ここ数年は、北海道の設計要領や標準図集の改訂、北海道条例制定などの委員としても活動しています。北海道らしく、北海道に適した道路設計のルール策定に携わることは、大変である反面やりがいも感じています。また他の委員のみなさまと議論したり交流することはとても良い刺激にもなり、自分自身の知識向上に繋がっています。関係者のみなさまには、この場をお借りしてお礼申し上げます。

いまさらながら道路構造令や指針等に目を通すたびに、道路の設計を行う際には多様な視点や観点から、その機能や役割を考慮する必要があると感じます。公共事業に携わる一技術者として、道路利用者の役に立てるような成果(=現場)が作成できるよう、今後とも地道な努力

高橋 正明 (たかはし まさあき)

●建設部門(道路)

勤務先

株式会社シー・イー・サービス
道路部



→次号は、浜辺孝一さん(建設部門)

私は、網走管内の津別町で生まれ18歳の時進学のため、札幌へ上京しました。大学は海洋関係の学部へ進んだものの、勉学は二の次で、当時はまっていたSnowBoardingな毎日を過ごし冬季はほぼ毎日スキー場へ通っていた思い出があります。22歳で現在の会社へ就職しましたが、土木に関する知識は皆無の状態、「技術士」という固有名詞すら私は知りませんでした。就職して2年後、人生を変えたと言っても過言ではない上司との出会いがあり、私は技術士と言うものを知ります。その上司からは、土木の技術的な話はもちろんの事、社会資本とは何か、社会資本整備に関わる技術者のあるべき姿勢、そして、土木技術者のすばらしさ等々(基本的な社会人としてのマナーも含め)、単に技術的な事柄のみならず数多くの事を学ばせていただくうちに、自分も技術士を取得したい(上司のような技術者になりたい!)と思うようになりました。とはいっても、土木の知識がほぼゼロであった人間が簡単に取得出来るわけありません。長い長い修行の間、多くの方々(指導、同世代の技術者)からの刺激をもらい、なんとか技術士となる事が出来ました。

技術士を取得してみて、自分は自分になりたいと思っていた技術者になれるか?と考えると、やはりまだまだである。技術士法第47条の2に「技術士の資質向上の責務」があるからのみならず、目標とする技術者に一歩でも近づけるよう、これからも修行を続けて行かなければならないと、この原稿を書きつつ改めて思う事ができました。(バトンを渡して下さった青山様有難う御座います。)技術士になりたいと思った頃の、初心に帰ってこれからも精進していきたいと思います。

笠井 尚樹 (かさい なおき)

●建設部門(鋼構造およびコンクリート)

勤務先

北武コンサルタント株式会社
技術部 構造グループ



→次号は、坂本智明さん(建設部門)